

令和4年産 コメ通信

第9号（令和4年8月22日）

【発行】
北秋田地域振興局農林部農業振興普及課
（電話：0186-62-1835）

ほ場をよく観察し適期に刈り取りを！

1 気象経過と生育状況

【気象経過】

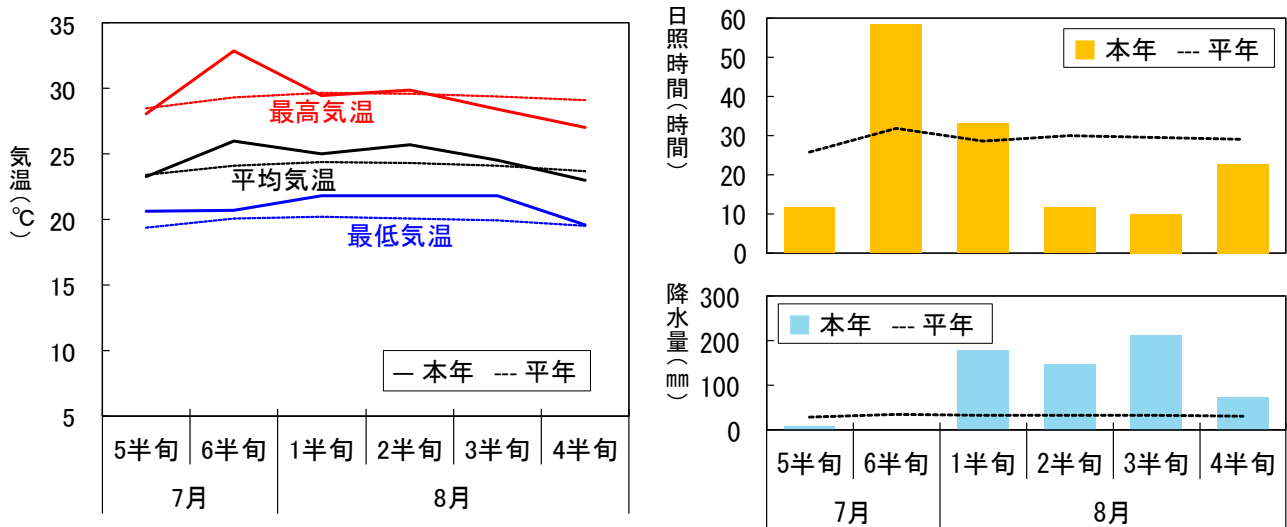


図1 気象経過図（アメダス鷹巣）

- 7月6半旬の最高・最低・平均気温は平年より高くなりました。8月1半旬以降の最高気温は平年並から低く推移しました。平均気温及び最低気温は8月3半旬まで高く推移しましたが、その後は平年並となりました。
- 7月6半旬～8月1半旬の日照時間は平年より多くなりましたが、それ以降は少なくなりました。
- 8月はまとまった降雨が続き、降水量はかなり多くなりました。

【生育状況】

- 8月19日現在の生育（あきたこまち：9地点平均）を平年と比べると、一穂あたりの着粒数はかなり多くなりました。しかし穂数がかなり少なかったため、 m^2 あたりの着粒数は平年並となりました。
- 定点調査ほの出穂期は7月31日（平年並）、管内全体の出穂期は8月3日（平年並）となりました。

表1 定点調査結果（8月19日）

	穂数 (本/ m^2)	葉数 (葉)	着粒数		出穂期
			(粒/穂)	(粒/ m^2)	
本年	403	13.0	81.2	32,534	7/31
平年	469	12.8	69.6	32,599	7/31
前年	476	13.2	72.7	34,444	7/27
平年比	86%	+0.2	117%	100%	±0日
前年比	85%	-0.2	112%	94%	+4日

※平年は過去10か年の平均値を示す。

2 今後の水管理

- 登熟の向上を図るため、出穂30日後までは間断かん水を実施し、土壌水分を保持しながら稲体の活力を維持することが重要です。特に、開花後25日間は米粒が肥大するため、土壌水分が不足しないように注意します。
- 冠水した稲体は、水分調節等の機能が低下しているため、田面の過度な乾燥に注意してください。
- 落水時期は、出穂30日後頃を目安としますが、稲の登熟度やほ場の作業性等を考慮してください。仙台管区気象台の1か月予報（8月18日発表）によると、向こう1か月の気温は高いと予想されています。そのため玄米へのデンプン転流が低下し、白未熟粒の発生による品質低下が懸念されます。玄米の充実を図るため、可能な限り落水時期を遅らせて、稲体活力の維持を図ってください。
- ★カドミウム含有米の発生が懸念される地域では、出穂期3週間後まで湛水管理を厳守し、カドミウムの吸収を抑制してください。

3 病虫害防除対策

【いもち病防除】

- 葉いもちや穂いもちの発生が散見されています。葉いもちが多発しているほ場では、出穂後25日頃までにフサライド剤により防除を行ってください。
- フサライド剤の使用回数は3回以内、使用時期は収穫7日前までとなっています。

【斑点米カメムシ類防除】

- 農作物病虫害発生予察情報の注意報 第1号が7月26日に、第2号が8月9日に病虫害防除所から発表されました。出穂期24日後頃に茎葉散布剤のキラップ剤（収穫14日前まで）またはエクシード剤（同7日前まで）を畦畔を含めて散布し、防除対策を徹底してください。※収穫2週間前までは草刈りをしないでください。
- 飼料用米でも、可能な限り2回目の防除を行ってください。

4 刈取適期の判定

- 刈取適期は、品種や栽培方法によって異なります。本年は、向こう1か月の気温は高いと予想されていますが、日照時間は平年並から少ないと予想されています。日照不足により積算気温と籾の黄化程度に差が見られる可能性があるため、ほ場をよく観察し、総合的に判断しましょう。

【刈取適期の判定基準】

①籾の熟色（図2）

葉や穂首が緑色であっても籾の黄化程度（黄色＋黄白色）が90%の頃

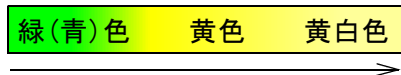


図2 熟色の進展

②出穂後の日数

早生種（あきたこまち 等）：出穂後45日頃
中晩生種（めんこいな 等）：出穂後50日頃

③出穂後の積算気温

※出穂期翌日から日平均気温を積算した値（表2）
早生種：950～1,050℃
中晩生種：1,050～1,150℃

表2 積算気温到達日予想

出穂期	950℃(平年)	1,050℃(平年)
7/30	9/9 (9/9)	9/14 (9/14)
8/5	9/16 (9/17)	9/22 (9/22)
8/10	9/23 (9/24)	9/30 (9/30)

※8月19日以降は平年値で計算した。

問い合わせはJ Aまたは農業振興普及課まで ～次回発行は9月下旬～